

# 脱炭素へ 岩出にプラ工場

## 奈良の加工会社 生分解性素材で新商品

奈良県大和高田市のプラスチック加工会社が、環境への負荷が少ないとされる生分解性プラスチックを製造する工場を岩出市に建設し、稼働を開始した。関西空港に近い地の利に着目して進出したといい、「脱炭素社会の実現に貢献することにも、その重要性を和歌山から発信していきたい」としている。

(遠藤花乃)

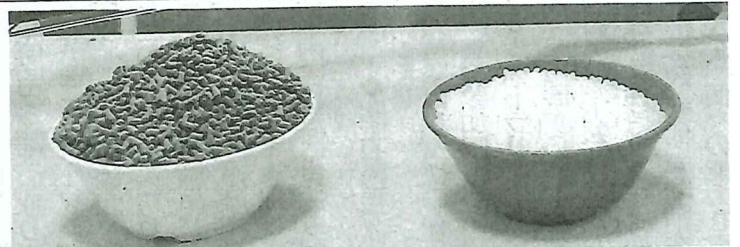


①生分解性プラスチック「ペパレット」を製造する牧村プラスチック工業の工場（岩出市で）  
②ペパレットで作ったハンガーを示す牧村社長



同社が活用するのは、協

会社は「牧村プラスチック工業」。同社は自動車や家電のプラスチック部品の製造、販売で豊富な実績を持つ。しかし、牧村恵史社長は「石油由来のプラスチックだけに頼るビジネスは先細りが必至。天然素材で活路を開きたい」と決断、昨年9月に工場を完成させた。当面は、新素材を加工して成形しやすいハンガーを量産していく考えだ。



「ポリ乳酸」(右)を原料にして製造された「ペパレット」(左)

した。ペパレットは、商品が役目を終え、処分する際、微生物の働きによって分解されて最終的に水と二酸化炭素になる。焼却して二酸化炭素を出すにしても、もともとが植物由来のため、石油製品と比べると、二酸化炭素の排出増加にはつながらない利点がある。

こうした点を環境省も評価し、同省の脱炭素社会に関する事業に採択され、新工場の設備購入では約1億6000万円の補助金を得た。

ハンガーは一つ3000円台からという単価を予定している。廉価品とは言いがたいが、有名デザイナーとのコラボでデザイン性を高め、「環境への意識が高いブランドメーカーなどとタイアップして付加価値をつける販売戦略を目指す」(牧村社長)という。

2016年の世界経済フォーラムでは「2050年には世界の海を漂う(石油由来の)プラスチック量が、海中の魚の全体量(重量換算)を上回る」との衝撃の試算が示された。和歌山で始まったこの挑戦にも大きな

にきび・しみ肌荒等の安心の保護化粧料  
クオオパール 縮水  
和歌山市吹屋町5丁目52-1  
TEL(073)42612777